5. 条件法 ③　　条件法の婉曲用法

※ 実生活における「仮定文」は、額面上は事実に反する内容であっても、実際には婉曲な言い回しとして用いられることが多い。

- 条件法が単独で用いられている場合も、そこには**「仮定文」**（事実に反する）の仮定節が省略されているものと考えられる。（婉曲用法という特別な用法があるというよりも、仮定文にそうした働きを担わせるというのがコトの本質。）

- 実際に事実に反する内容であっても、そこには話し手の何らかの意図が込められている。

  Se io fossi in Gianna, lascerei subito quell'uomo. という文も、その真意は「*ジャンナはあのような男と付き合うべきではない*」という強い主張である。

- **条件法の難しさ** は、話し手の真の意図が語学的要素からだけでは掴めないところに存する。

  ↓

  イタリア人の生活・習慣・メンタリティ等を知る必要があり、純粋にイタリア語の勉強だけで理解・習得するのは困難。

未来の変化語尾	条件法の変化語尾　（全動詞共通）
-rò	-rei
-rai	-resti
-rà	-rebbe
-remo	-remmo
-rete	-reste
-ranno	-rebbero

vorrei を知っているので簡単。

末尾の i を e に。

未来との違いは m の二重化のみ。

+ro

●